

◎まちなか古墳・遺跡コース

遠江国分寺史跡公園⇒京見塚古墳⇒土器塚古墳⇒兜塚古墳⇒一の谷中世墳墓群⇒
澄水山古墳(農高)⇒丸山古墳(農高)⇒庚申塚古墳(三俣坊)⇒御殿遺跡公園



① 遠江国分寺史跡公園

奈良天平の時代に聖武天皇が発した国分寺建立の詔天平13年(741年)は、全国に国分寺と国分尼寺を建てさせた。遠江国では、すでに国府が置かれていた磐田の地に建てることとなった。現在の市役所の北側がその場所である。明確な建立年は定かではないが、戦後早くから同地の発掘調査が行われた結果、全国でも貴重な歴史的な価値が認められたため特別史跡に指定された。七重の塔、金堂を初めとする壮大な伽藍が古代の磐田に存在していたのである。現在は、史跡公園として整備され、市民の憩いの場となっている。



② 京見塚古墳

5世紀中頃に造られた直径47mの円墳で、大正11年(1922年)に調査が行われ、周辺からは小円墳や埴輪焼成窯、旧石器時代の集落跡遺跡なども発見されている。発見された古墳はこれらが復元され、公園となっている。墳丘からは、天竜川が一望できる。この地に住んだ戒成皇子(恒武天皇の第四皇子)が、塚の上から京を偲んだため、「京見塚」と呼ばれるようになったと言われている。



③ 土器塚(かわらけつか)古墳

古墳時代中期(5世紀前半)の円墳で、直径約36m、高さ約5m、周囲には幅約7mの溝(周溝)があります。付近にある土器(かわらけ)塚古墳は、墳形をよく残している。東西方向に長さ7~8m、幅1mの穴に棺をおさめ、周囲からは管玉1、よろいの破片が発見されています。



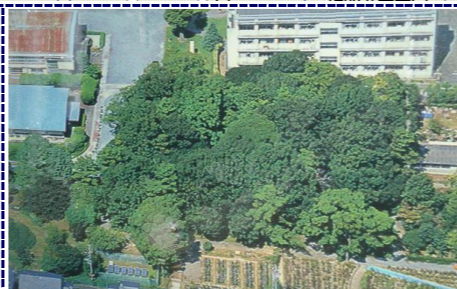
④ 兜塚古墳

兜塚古墳は、磐田市の兜塚公園正面駐車場の北側にあります。古墳時代中期(5世紀)の直径80m、高さ8mの、静岡県最大の円墳(全国でも4番目くらい?の大きさの円墳)です。墳丘には葺石(ふきいし)があり、中段からは埴輪が発見されています。1944年(昭和19年)に古墳の上に高射砲陣地を建設する際、墳頂部から銅鏡(三神三獣鏡)、玉類、大刀が出土しました。名前の由来は、「兜の形に似ているから」、「戦国時代の「一言坂の戦い」の時に、徳川家康の家臣本多忠勝が兜をかけたから」など諸説あります。



⑤ 一の谷中世墳墓群

一の谷墳墓群(ふんぼぐん)遺跡は鎌倉時代から400年もの間、墓地として続きました。公園内に復元された墳墓の模型があります。明らかになった墓は、それぞれさらにいくつかの形式に分類されています。その中には土葬可能な規模を持つ土抗も見られますが、多くは火葬骨で、あるいは碎骨して散布または塊のまま、あるいは骨蔵器に収めて埋葬され、茶臼の痕跡を示す墳墓もあります。「一の谷中世墳墓群」の北区では火葬を行った地下に掘り窪めた遺構も見られています。



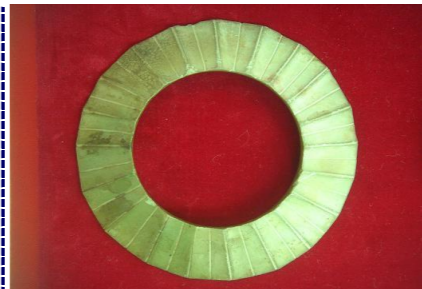
⑥ 澄水山古墳(農高)

澄水山古墳は、古墳時代中期(約1500年前)の前方部が短い帆立貝式の前方後円墳で、市指定史跡になっています。全長約55m、後円部直径約45m、高さ約5mの墳丘が二段になった古墳で、東側に長さ約10m、幅約36mの前方部がつきます。1944年(昭和19年)に防空壕を建設するため、墳頂部の中心が掘られました。その際、約2m下から鉄塊と頭椎大刀(かぶつちのたち)、墳丘の裾からは円筒埴輪の破片が発見されています。澄水山古墳は、磐田農業高校の校内にあります。



⑦ 丸山古墳(農高)

丸山古墳は、古墳時代中期の直径約45m、高さ約5mの円墳です。壺形土器が出土したと、伝えられています。墳丘にはみかん畑と掲揚台があります。丸山古墳は、静岡県立磐田農業高校の校内東側に存在します。



⑧ 庚申塚(こうしんつか)古墳(三俣坊)

庚申塚古墳は、約1600年前の前方部を東に向けた前方後円墳で、全長83m、後円部直径45m、高さ4mでした。現在は大乘院境内に、後円部の一部が残存しています。(後円部の上に大乘院が建てられている。)明治時代に、前方部のくびれ部から鏡2、車輪石1、石釧1が出土しました。平成17年度の境内整備工事では、埴輪片が見つかっています。



⑨ 御殿遺跡公園

御殿・二之宮遺跡は(略)弥生時代から中世・近世にかけて営まれた遺跡です。特になら時代には、文字の書かれた木札や土器(木簡・墨書土器)が出土していることから、この地に遠江の国の役所が置かれていたと推定されていました。平成4・5年度に発掘調査した結果、この場所から直交するように配置された古代の大規模な建物跡が見つかりました。配置や規模から役所の建物の一部と推定されます。国分尼寺と国分僧寺の中心線を真南に延長した場所にあたることから、古代の都市計画に基づいて建物が造られたと考えられます。1578年(天正6)浜松城に在った徳川家康が鷹狩の際の宿泊・休憩所として、現在の磐田駅南地域(磐田市中泉)に建築したのが中泉御殿で、1606年(慶長11)3月、駿府城に隠居し、没するまでしばしばこの御殿を訪れていたという。

★磐田地区の産業★

蚊帳(かや)の生産



蚊帳の博物館

日本古来の蚊帳は平織りで糊付けして固定したものである。菊屋の蚊帳は、縦糸を絡ませながら横糸を固定していく方法で「カラム織」といい、魚網を編む方法と同じである。福田地区の魚網生産者が生産し、菊屋がインターネットで全国に販売。

日本伝統の蚊帳は、京都西川の初代が江戸時代に発明し全国に広まった。西川は蚊帳の生産を平成12年(2000年)に中止し、布団屋に特化した。日本蚊帳商工組合は幕を閉じたが、同時期に菊屋が蚊帳の生産を始めたのである。

インターネット販売が爆発的にヒット、洗濯の出来る蚊帳として注目を集めた。テレビ、ラジオ、雑誌などマスコミに全国レベルで発表され、新時代の使われ方で健康志向にも向き、ベッド用、天吊りタイプ、六面体、オーダーメイドなど予想外の使われ方から、商品のタイプが充実し、トップメーカーの地位を確立した。

近隣には「蚊帳の博物館」を創設し、さまざまなタイプの蚊帳の展示したり、即売したりして、全国からユーザーが来訪している。

★磐田地区の特産品★

清酒 千寿白拍子

磐田が生んだ鎌倉期最高の舞姫千寿を銘にもつ清酒です。

